

読者が語るインターネット活用術

世間で言われるほど、インターネットは活用されているのだろうか。特に農業生産の現場にいる人たちに役立つ情報は収集可能なのか。また最近、農家の産直ホームページも増えてはいるが、本当のところ成功しているのか。

結局のところ、インターネットの本当の価値はユーザーにしかわからない。そこで、本誌読者の中でインターネットを活用している方々に直接インタビューして、その楽しさ、利便性の如何について語ってもらうことにした。



全農アピネス/アグリインフォのトップページ

第1弾の今回は、静岡県のお茶の生産者Sさんに聞いてみた。Sさんはインターネットを使い始めて約半年。40代後半にして初めての挑戦だ。時々、本誌編集部にもメールを下さきり、インターネットの利便性を実感している人の一人だ。

筆者 インターネットのご利用は続けていらつしやいますか。

Sさん もちろんだよ。最近だとレタスの育苗技術について調べたかな。

筆者 どのサイトをご覧になりましたか。

Sさん 3ヶ月前に入会した全農のアピネス/アグリインフォ (<http://agrizem.or.jp>) が一番情報がしつかりしていた。レタスの播種時の灌水の注意点、温度調節や換気など発芽後の管理について調べたんだ。結構、参考になったよ。

筆者 同じ情報を図書館とか本屋で調べると比べると、やっぱり便利ですか。

Sさん 全農のアピネス/アグリインフォの場合、全農の技術センターの研究者の書いた文章がそのまま読めるというのがスゴいんだな。普通、図書館では置いてないし、紙で手に入れようと思ったら全農のある神奈川県平塚市まで行かないと。

筆者 他に、全農のアピネス/アグリインフォで何を調べましたか。

Sさん 野菜の培土について。特に、セ

ル成型育苗育苗培土の経済性と機能性について、具体的商品名を挙げながらの解説はよかった。農業については、登録されているすべての農業が、作物別、適用内容別に検索できるのが便利。新規登録農業や適用内容の変更がまめに更新されているのもいいね。

筆者 この検索を使って、実際に購入を決めた農業はありましたか？

Sさん 使い始めたばかりだからまだないね。膨大な農業情報を検索できるのは便利なんだけど、ひとつ不満があるんだな。個々の農業の抵抗性の問題や天敵への影響についての情報があまり充実していない。

筆者 そそこが、農業を取捨選択して購入に至るまでの本当の情報源なんですね。

Sさん その通り。負の情報開示というのは、団体とか会社とかがやるのはなかなか難しいと思うよ。

筆者 「うちでは、この農業を使って何年になるけど、抵抗性が出てきて困っている」といった農家の生の声があつて、別の農家が「それについては、俺はこうやっているよ」みたいな現場の声を共有できるページが必要なんですな。

Sさん 農家の掲示板なんかには、そういう意見交換があつて面白い現場の知恵が発見できる時もある。ただ問題は、どのレベルの情報が交換されているかだと思うけど。あと、いわゆる専門家にメール

で気軽に質問できるのは今までにない事だね。ウェブ上では、権威も何もあまり関係ないからね。さつき話に出てたアピネス/アグリインフォでも、営農技術相談というのがあつて、質問すると全農の担当者がかなり細かく応えてくれるんだ。僕はまだ質問してないけど、今度してみようと思つている。

筆者 どんなことをお聞きになるつもりですか。

Sさん 土壌病害に対する対策についてかな。地上部の病害虫の対策については、防除技術のコナーで詳しくあるんだけど、土壌病害となると施肥や物理性の改善とか当たり前のことしか書いてない。巷に出まわっている土壌改良剤の中には、登録がなくても、現場的には効果の高いモノが増えている。臭化メチルの全廃など土壌消毒の規制が始まる時、全農としてどういう資材を農家に勧めるのか関心がある。

筆者 なるほど。一農家というよりジャーナリストみたいな関心の持ち方ですね。

Sさん 農業は、物事を大局的に捉えることが大切なんだ。先を見据えた問題意識を持つことで初めて今の経営を現実的に改善できる。一個人として全農に何でも質疑できるのは、インターネットの陰。楽しい世の中になってきたよ。

(浅川芳裕)